



(コメント) 景観の計画をする際に、ファサードの計画も重要であるその景観を楽しむ場所の計画も要るのではないか。

D 金



(コメント) 商人館敷地内を案内してもらっている様子。600坪という敷地の大きさと建物の配置を少しだが体感することができた。

M2 浅井



(コメント) 伊勢河崎商人館での一場面。苦労の上完成した商人館が拠点となり、NPOの方が優しく迎え入れてくれた。河崎の人ではなくても、熱心に地域の特産品である伊勢春慶を紹介する様子が印象的だった。

M2 手邊



(コメント) NPOによる活動の一つに蔵の仲人事業があり、その事例の一つであるモナリザというカフェ。石蔵を利用したアートの情報なども発信したおしゃれな店で、若い人でにぎわっている。

M1 竹田



(コメント)関宿のちょうかんでい。正面を通る人からは、上が展望台である事すぐにはわからない。街道を歩く人からは「なんか人がいる!」という驚きがある。そして「上りたい」という気持ちをかき立てる何かがある。 M2 國居



(コメント)同じ高さ、大きさが少ない屋根が特徴、しかし、全体的にまとまっている様子、色や素材も自然とうまく釣り合う。

M1 朴



(コメント)江戸時代の写真と照らし合わせると瓦の様子、傾斜、道に至るまでまったく同じ景観を残しているこの建物が時代を越えてもなおこのままの状態で行んでいる姿が印象的であった。 M1 中桐



(コメント)伊勢で生まれた漆器を復活。週末を利用して修業に来ている。(体験ではない。)京都工織とコラボした商品もある。商品は向かいの『吉の蔵』で販売。 B4 川口



(コメント)庭と部屋、縁の関係がとても居心地よく感じた。

B4 久保



(コメント)木の素材を使ったアーチ構造が内部に大空間を作っていた。鉄骨やコンクリートのアーチに比べると空間に柔らかさ、暖かさがあり、安心感のある博物館になっている。

B4 松原



(コメント)松坂城から御城番屋敷を眺めている。建物を上から見ると歩く時には分からなかった屋根の形が繋がっている様子がよく分かる。 B4 松田